

(別紙5)

整理番号 2017P-088
補助事業名 平成29年度 学術・文化の振興のための活動 補助事業
補助事業者名 特定非営利活動法人 東京フィルメックス実行委員会

1 補助事業の概要

(1) 事業の目的

近年映画を取り巻く環境は均一化し、質的に乏しい状況に陥っていることに対し、創造性溢れるアジアの映画作家の作品を通じて育成を促進し、もって公益の増進に寄与する。

(2) 実施内容

アジア映画のコンペティション

創造性溢れるアジアの文化の多様性の一端が窺える新人作家による9作品を選定し、コンペティションで上映した。ベテランの作品やアメリカで活躍したジャック・ターナー監督の特集も上映。創造者と受容者の双方に映画史再考の機会を提供した。また若者への取り組みとして、学生審査員の立場で映画祭を体験し、批評眼を養う機会を提供した。



2 予想される事業実施効果

■上映作品の映画祭後の展開

- ・ 日本映画作品
コンペティション上映作品『泳ぎすぎた夜』が2018年春に国内公開決定。特別招待作品『ニッポン国VS泉南石綿村』が2018年3月に国内公開決定。特別招待作品『東京ヴァンパイアホテル 映画版』がとよはし映画祭に出品決定。
- ・ コンペティション『馬を放つ』（アクタン・アリム・クバト監督）が2018年3月に公開決定。特別招待作品『モアナ（サウンド版）』（ロバート・フラハティ監督他）が2018年9月に公開決定。

(別紙5)

■ (継続) 学生自治主体との協働、教育機関との連携

過去数年実施している、大学との連携を引き続き実施した。

多摩美術大学、日本大学芸術学部、慶應義塾大学の団体鑑賞を実施し、日本映画大学及び早稲田大学からインターン各1名(広報担当)を受け入れた。また学生によるサークル東京学生映画祭により「学生審査員賞」も継続した(『泳ぎすぎた夜』が受賞)。こうした連携を通じて、若い学生による主体的な映画や芸術、ひいては社会的な取り組みへの参加を望んでいる。

■ (継続) バリアフリーへの取り組み

過去に貴会からはヒアリング等を通じて、また他のステークホルダーから本事業における「映画の社会的な取り組み」についてご意見を踏まえ、平成23年から開始した聴覚障がい者向けのバリアフリー上映を今年も実施した(「グーグーだって猫である」「天然コケッコー」)。

■ (新規) 前項に加えて、子どもの映画鑑賞を促進するための親子鑑賞会を実施した(「ソング・オブ・ザ・シー」「父を探して」)。これら4作品の上映をまとめて、<「映画」の時間プラス>として実施した。

3 補助事業に係わる成果物

(1) 補助事業により作成したもの

対象経費使用なし

(2) (1) 以外で当事業において作成したもの

ポスター	150枚
チラシ	73,000枚
リーフレット	5,000部
カタログ	1,700部

4 事業内容についての問い合わせ先

団体名: 特定非営利活動法人東京フィルメックス実行委員会(トクテイヒエイリカツドウホウジントウキョウフィルメックスジッコウインカイ)

住所: 〒177-0035

東京都港区赤坂5-4-14 トレード赤坂ビル3F

代表者: 理事長 森 昌行(リジチョウ モリ マサユキ)

担当部署: 事務局(ジムキョク)

担当者名: 事務局スタッフ 金谷重朗(カナヤシゲオ)

電話番号: 03-3560-6393

F A X: 03-3586-0201

E - m a i l : canalla@filmex.net

U R L : <http://filmex.net>